神戸大学経済経営研究所
Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe University

■コラム　RIEB ニュースレターNo.232　2022 年 3 月号

卒業

神戸大学　経済経営研究所
教授　伊藤　宗彦

３月は卒業という特別な月である。神戸大学に来て２０年余り、たくさんの学位論文の指導をし、学生を社会に送り出してきた。しかし、よく考えてみると、卒業式に立ち会ったのは、２回だけだった。実は、今年で退官を迎え、自分が“卒業”する。もう、30 年近く、卒業式にも出てないなと、ふと、学生時代の卒業式を思い出した。小学校、中学校、高校とも、「仰げば尊し」を合唱した記憶がある。おそらく、我々の世代は、「卒業式＝仰げば尊し」と刷り込まれているのかその記憶しか浮かばない。今はどうなっているのかと、google で「年代」、「卒業式で歌う曲」と検索をかけて調べてみると、多くのサイトにランキングが並んでいた。５０代のベスト３は、「仰げば尊し」「贈る言葉」「蛍の光」という順である。自分の意識の中での定番ソングとぴったり一致しており、ほっとした。４０代も、全く同じ結果である。３０代でもやはり、１位は「仰げば尊し」であるが、ここで、「３月９日」「旅立ちの日に」が２位、３位に入っている。さらに、２０代、１０代になると、「３月９日」「旅立ちの日に」が１，２位となり、２０代の３位は、「手紙」、１０代では「YELL」となっている。正直なところ、「３月９日」「旅立ちの日に」という曲は知らなかった。YouTube で「３月９日」「旅立ちの日に」を聞いたが、初めて聞いたような気がした。「手紙」については２０代、１０代でも、由紀さおりを聞くのだなと感心したが、調べてみると、アンジェラ・アキという歌手の名前があった。少しだけほっとしたのは、「仰げば尊し」はいずれの世代でも、ベスト１０には入っていたことである。

今年も３月に入り、先日、ゼミ生より連絡を受けた。修士課程の学生３名からの連名であった。彼らの連絡には、「退官おめでとうございます」という言葉が書かれており、自分も卒業するんだと、自覚させられた一言だった。コロナの影響で、ほとんどのゼミをリモートで行った関係で、なかなかコミュニケーションを深めることができなかったことは悔いが残る。４月から、他大学で教鞭をとることが決まっている。すでに、４月からの講義も決まっており、シラバスも書いたが、初めての講義もあり、正直、期待よりも、不安の方が大きい。何が不安かというと、「３月９日」「旅立ちの日に」という卒業ソングですら聞いたことがなく、カルチャーギャップがあるかもしれないという不安である。しかし、“退官”で４月から家でゆっくりする年代であることを思えば、こうして、新たな挑戦

ができることは、いろいろな人のおかげと本当に感謝している。

先月、経済経営研究所の吉原秀樹名誉教授がお亡くなりになった。神戸大学在学中には講義を受け、研究所においても目をかけてくださり、ご退官後も財団での活動など後押しいただくなど、本当にお世話になった。“仰げば尊し、わが師の恩”という一節は、今の心境を表してくれる。やはり、卒業には「仰げば尊し」以外は考えられないことを改めて確認できた。この曲は、作詞作曲者不詳ということになっている。この歌詞は、同じ思いで書かれたものかなと、ふと作詞家の感性に触れた思いがした。歌い継がれてほしいと思った。